

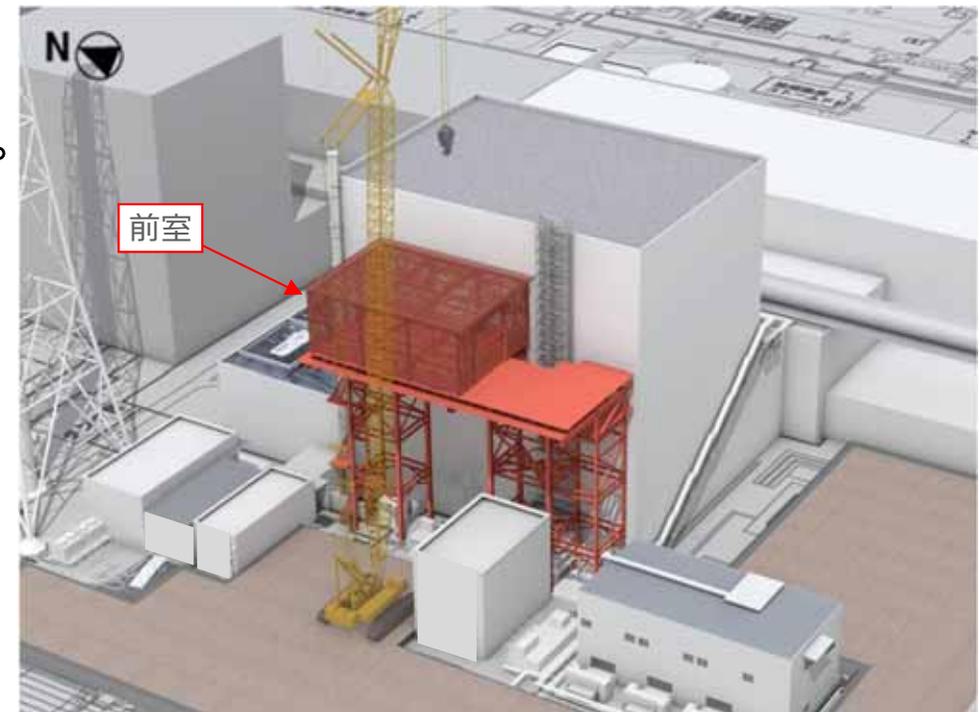
2号機原子炉建屋西側外壁の開口設置について ～4月16日から本格的な作業を開始します～

< 参 考 資 料 >
2018年4月12日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2号機では、使用済燃料プール内の燃料取り出しに向けて、周辺環境に影響を与えないための方策等を検討するため、オペフロ内で線量・ダスト濃度等を測定する調査を計画しています。
- この度、準備が整ったことから、オペフロ内へアクセスするための開口（幅約5m×高さ約7m）の設置作業を前室内で開始します。

【前室におけるダスト飛散抑制等の取り組み】

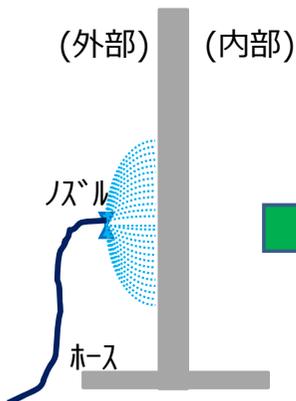
- 前室の構造は鉄骨造、屋根・外壁は金属製折板。原子炉建屋と前室の隙間や前室の屋根・壁と床の隙間は、コーキング材やゴムパッキン等による処理を実施済み
- 前室空気中の放射性物質濃度を低減するため、前室内の空気を循環・浄化する換気設備を設置済み（HEPAフィルタ捕集効率：0.30マイクロメートル粒子に対して99.9%以上）
- 前室の周囲4箇所と前室内1箇所にダストモニタを設置済み



原子炉建屋西側構台・前室のイメージ

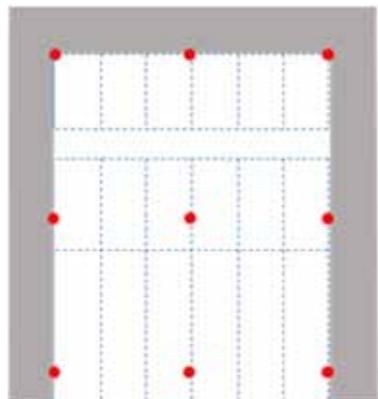
開口設置作業の手順

飛散防止剤散布(外部)



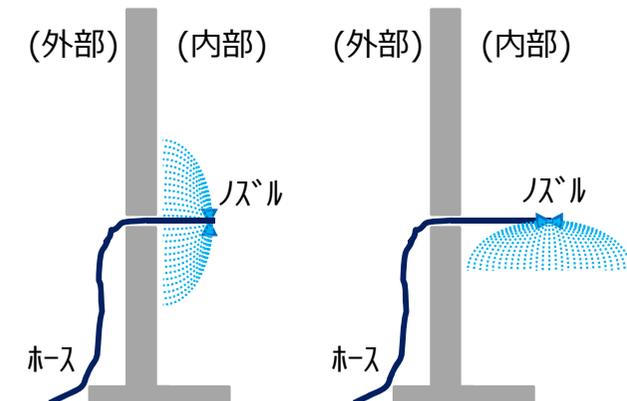
- ・外壁面に飛散防止剤を散布

コアサンプリング(内壁面調査)



- ・西側外壁内面の汚染密度を測定

飛散防止剤散布(内部)

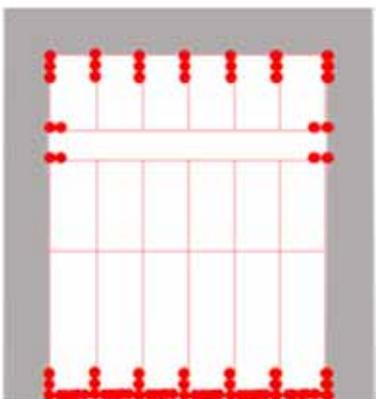


- ・調査用コア穴を利用し、壁・床面に飛散防止剤を散布

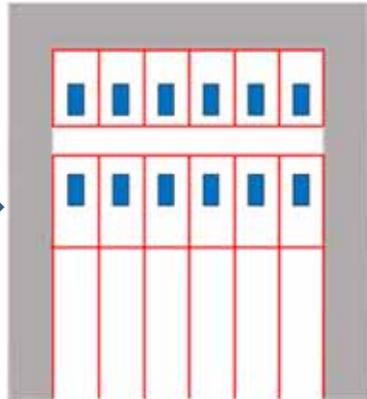
(壁裏散布イメージ)

(床散布イメージ)

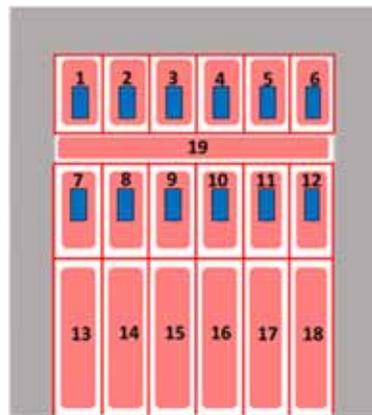
解体用コア抜き



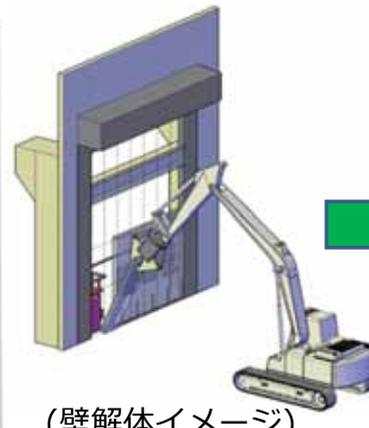
壁面目地切り・解体用
ブラケット取付



壁解体

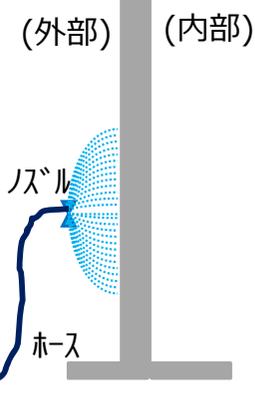


- ・解体用の目地切り等を行った後、遠隔操作重機によりブロック状に壁の解体を実施



(壁解体イメージ)

飛散防止剤散布
(解体部位・ガレキ)

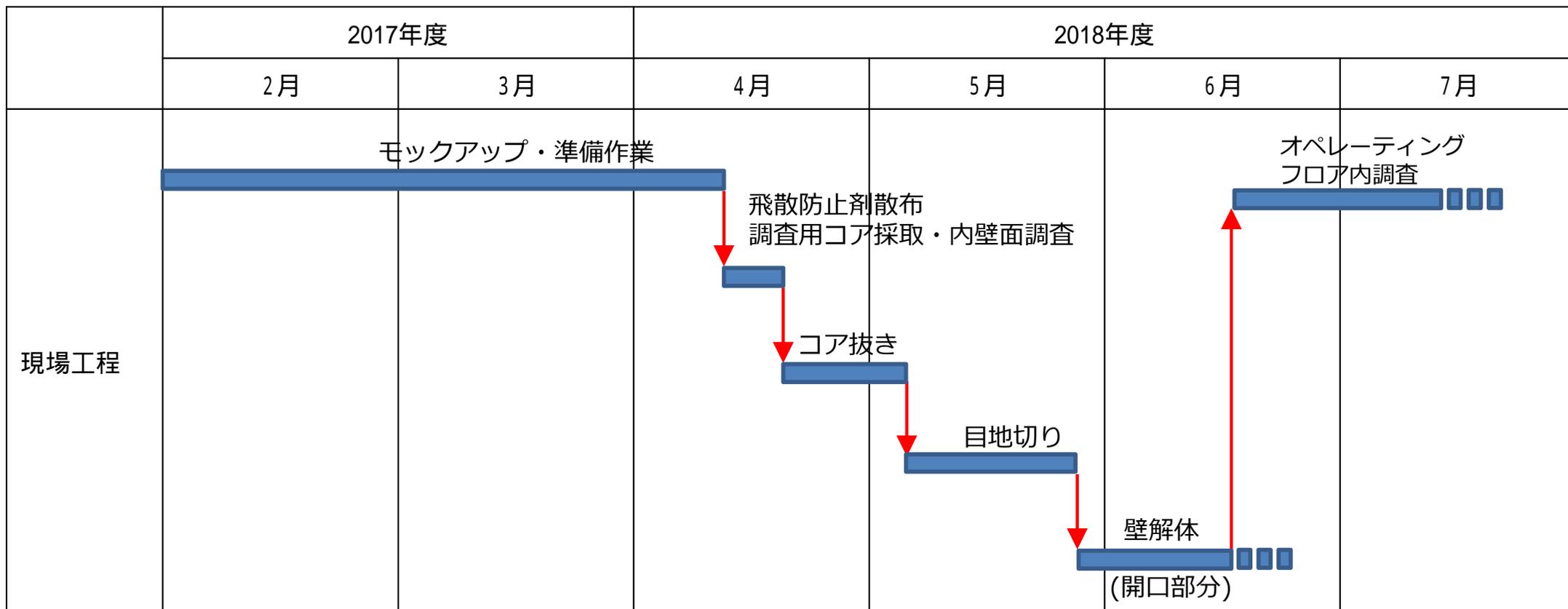


- ・解体した壁の断面や解体ガレキに対し、飛散防止剤を散布

※コア抜き箇所、目地切り箇所については、変更する可能性があります

今後のスケジュール

- 2018年4月から西側開口設置作業を開始し、その後、オペレーティングフロア内の調査を実施する予定です。



※汚染密度測定結果や開口後の線量環境等により、工程が変動する可能性があります